

スポーツ公園の中丸池の保全を

町長 県と協議を進めながら検討していく



石川重二議員

豪雨災害で満砂になった中丸池は

問 2年続きの豪雨により、土砂が鮎貝の中丸池を埋め尽くすまでになっていく。ただ、中丸池があったことにより八幡、大町方面の住宅地への災害が未然に防がれたと認識している。

災害防止とスポーツ公園の中でもシンボリックな中丸池の保全について町長の所見を問う。

町長

中丸公園は、スポーツ施設を含め町の最大で重要な都市公園と認識しており、町民のスポーツ振興、健康増進、子育て、憩いの場の拠点として、今後、施設整備並びに維持管理を行うことが必要と考えている。

問

一方で、中丸池への土砂の流入を防ぐには、上流部の常海沢川の整備と陽

合わせて常海沢川の整備を

光学園南側の崖地崩壊防止工事を併せて行うことが重要と思うが。

町長

常海沢川は、上流域にある山腹が荒廃しており、砂が押しこめる河川であることから、砂止めの施設は管理上必要なものと認識している。

常海沢川は町で管理する準用河川であり、県の砂防指定地にもなっている。

ため池の浚渫は、防災上必要であることから、上流部の対応と併せて早い時期に工事着工できるように、さらに県と協議を進めながら検討していく。

西口堰の土砂流入対策は

問

常海沢川から西口堰への分水口があり、大量の砂が西口桜館方面に流れてきて、頻繁に砂上げしなければならぬときがある。上流に大きな砂だまりをつくり、大型機械で処理できるよう対応できないか。

町長

西口堰については、鮎貝4町内西口地区の農業用水路であると認識をしている。流入する土砂対策として、鮎貝西口交差点付近に砂止めの柵が設置されていたが、地元での維持管理が困難であることから撤去されている。

鮎貝区と水利関係者が検討したうえで町としての対応を検討していく。



3年過ってもこのまま